

事例2

< 事例概要 >

- ・閉塞性動脈硬化症で大腿切断、脳梗塞、認知症の80歳代の患者。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。
- ・経口摂取困難、血清アルブミン値が低下（1.8 g/dL）し、栄養剤投与目的に胃管を挿入した。BMI 12.8。
- ・嚥下機能低下、意思疎通困難、円背、挿入困難歴あり。
- ・看護師、整形外科医が胃管を挿入したが、胃内に到達できず、消化器内科医が排液用チューブにガイドワイヤーを使用し、透視下で胃管を挿入した。X線で胃管の先端が胃内にあると判断し、栄養剤の投与を開始した。約1時間後に心拍数が増加し、約8時間後にうめき声をあげ、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）は測定不可となり、血圧が低下した。CTで胃管の胃外への穿破、腹水貯留、free airを認め、同日緊急手術を行ったが、2日後に死亡した。